

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 FDのための情報技術研究講習会

<事業計画>

私立大学における教員の教育技術力の向上を支援するため、全国の大学・短期大学を対象に「FDのための情報技術研究講習会」を学外FDとして実施する。アクティブ・ラーニングに必要なICTの活用法及び教育改善手段としてのICT活用技術の習得を目的として、事前・事後学修を徹底するためのLMS(ラーニングマネジメントシステム)、教員と学生、学生同士の対話環境作り、モバイルの活用、動画など視覚教材の作成、ALの授業マネジメントなどをアラカルト方式で参加者の希望に応じて実施するとともに、大人数授業におけるALの工夫、ICT活用教育を推進するための著作権法理解などの関連情報の提供、ICTを活用した授業体験を参加者全員に実施する。

<事業の実施結果>

「FD情報技術講習会運営委員会」を継続設置し、「FDのための情報技術研究講習会」を実施した。以下に委員会及び研究講習会の活動を報告する。

FD情報技術講習会運営委員会

平成30年10月25日、11月15日、平成31年2月13日に平均8名が出席して3回開催し、開催計画の策定、実施準備を行った。

(1) 開催要項の策定

分野共通で必要と思われるICTの活用方法及び教育改善手法の習得を目的に、私立大学教員の教育技術力向上を支援する学外FDとして開催する。

プログラムは、全体会でICTを用いた授業支援の体験、著作権の基礎知識を紹介し、教員が希望するアラカルト方式による9つのワークショップに分かれて、LMS、教材作成、授業マネジメントなどの知識理解から活用技術の獲得までを目指して、以下のように開催要項を策定した。

平成30年度FDのための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：平成31年2月26日(火)～27日(水)
2. 会 場：追手門学院大学（大阪府茨木市）
3. 対 象 者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学教員
4. 講習会の概要

大学教育に、自ら学ぶ力、自ら考える力を育てるアクティブ・ラーニングが望まれて久しくなります。しかし、アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む意識はあるものの、実際にどのように自分の授業の中で展開していくのか、その具体的な方法に戸惑う教員も少なくありません。

そこで、本研究講習会では、アクティブ・ラーニングを実現するために、分野共通で必要と思われるICT(情報通信技術)の活用方法および教育改善手法の習得を目的として、事前・事後学修を徹底するためのLMS、教員と学生・学生同士による対話環境を支援するツール、動画などの視覚教材、ICTを活用した授業マネジメントなどについて全体会とワークショップを設定しました。

【全体会】

- (1) 体験：「ICTを用いた授業の支援」

及川 義道 氏（東海大学教育開発研究センター次長、理学部教授）

- (2) 講演：「ICT活用と著作権の基礎知識」

中村 壽宏 氏（神奈川大学大学院法務研究科教授）

【ワークショップ】

ここでは、LMS、教材作成、モバイル活用の知識理解から情報技術の獲得を目指し

て、参加される先生それぞれの希望に応じたアラカルト方式で実施します。

(1) ワークショップ 1 「Google Classroom で授業を受けてみる (体験編)」

[コース内容]

Google Classroom が一般の Gmail 利用者にも開放されています。Web 上で誰でもクラスを作って教えたり、学修者として学んだりすることができます。課題や質問、資料など機能は限られますが無料で利用できます。ここでは、受講される先生方に学修者になっていただき、Classroom の機能を活用した模擬授業を受けていただきます。この体験を通してご自分の授業への活用の可能性を検討していただきます。

(2) ワークショップ 2 「LMS 基礎編：LMS の基本操作」

[コース内容]

LMS (Learning Management System) は、学修支援を行うための便利なツールです。事前に資料を配布する、知識の修得状況を把握するなど予習の段階から、授業内での資料の提供、質疑応答、問題演習、授業後のレポート提出、小テスト、演習など、学修の様々な状況でオンラインによる支援が可能です。Moodle と呼ばれる LMS を用いて、このワークショップ用に準備したサンプルに、PDF 資料、討論、アンケート、課題提出などの情報を追加しながら、予習、授業、復習での利用方法の習得を目指します。

(3) ワークショップ 3 「モバイルによる教材作成」

(iPhone/iPad を用いたビデオ作成と YouTube 配信)

[コース内容]

近年、反転授業の事前学修、演習問題の解説、実習等のやり方の説明など、講義ビデオが活用される場面が増えてきました。最近では、モバイル端末を活用して簡単に講義ビデオを作成し、配信することが可能です。ここでは、「講義ビデオの基礎」や「授業での活用ポイント」について解説します。その後、iPhone または iPad を用いて講義ビデオを作成し、YouTube で配信するまでの実習を行います。

(4) ワークショップ 4 「Google Classroom で授業を始めてみる (基礎編)」

[コース内容]

授業では、学修者の反応を確かめながら進めたり、学修者同士の話し合いを重視したり、あらかじめ課題を出しておいて課外で学ばせたり、授業のまとめや定着を授業後に課外で行うなど様々な形態が考えられます。ここでは、Classroom で実際にクラスを作り、授業を構成する課題や質問、資料の登録方法を実習していただきます。これらの体験を通してご自分の授業形態にそった活用方法を検討していただきます。

(5) ワークショップ 5 「LMS 活用編：レッスンとテストの作成」

[コース内容]

LMS による学修支援方法の一つとして、レッスンという方法があります。この方法では、「学修者への資料の提示」→「問題と選択肢の提示」→「選択肢に応じた資料の提示」を繰り返しながら、学修者ごとに適した情報を提供します。また、学修内容の確認や応用力養成のため、小テストを実施することがあります。ここでは、Moodle 上でレッスンや小テストを作成する基本操作の習得を目指します。レッスンの作成では、実際にいくつかの資料、問題を作成し、これらを連結して一つのレッスンを組み立てます。また、問題を組み合わせる小テストを構築する方法も実習します。

(6) ワークショップ 6 「動画教材の作成」

[コース内容]

近年、反転授業の事前学修、演習問題の解説、実習等のやり方の説明など、講義ビデオが活用される場面が増えてきました。ここでは、パワーポイントで作成した資料を動画として提供する方法、PC での画面キャプチャによる動画教材作成の方法について実習します。また、作成した動画教材を LMS や YouTube で利用する方法についても実習します。

(7) ワークショップ 7 「アクティブ・ラーニングで授業を進める」

[コース内容]

アクティブ・ラーニングで ICT を活用している事例を示し、様々な手法から効果的な方法を確認していきます。先生方の授業で求める成果と ICT の活用方法をグループで議論し、授業に取り入れることができるように進めます。多くの事例を参考にしながら進めますが、学修者が効果的に「考える力」や「思考力」を促進することも含めます。

(8) ワークショップ 8 「LMS 活用編：ループリックの作成」

[コース内容]

ここでは、ループリックとは何か、どのような場面で活用できるのか、ループリックの基礎について具体的なループリックの例を提示しながら解説します。その後で LMS(Moodle)の機能を活用して課題を評価する際のループリック作成を実習します。

(9) ワークショップ 9 「講義に生かす ICT ツール入門」

[コース内容]

ICT は、学生の学びをサポートできる有力なツールの一つです。しかし、実際にどのようなツールがあり、どんな場面で利用できるのかがわからず、使うことに二の足を踏んでいる教員が多いようです。ここでは、LMS 以外の授業に役立ちそうなさまざまな ICT について講義、実習を行います。講義では、目的別に Web 上で提供されている各種ツールについて解説します。実習では Google Forms、Kahoot などの投票ツールを用いた状況把握をはじめ、共有ホワイトボード・付箋ツール・マインドマップを用いた協働作業、ワードクラウドを用いた意見の集約と表示、Web タイマーによる発表時間の管理、スマホを用いたワイヤレスプレゼンテーションなどを体験します。

(2) 実施結果

平成 31 年 2 月 26 日から 27 日の 2 日間開催し、追手門学院大学を会場に、52 大学、1 短期大学、64 名の参加があった。以下にアンケートを踏まえた結果を報告する。

- ① 全体会では、ICT を活用して事前・事後学修、教室外での学修、教室内での資料提示、アンケートによる理解度把握、掲示板を活用した意見の共有・討議などの体験イメージを得る模擬授業、著作権の基礎から実際に授業で直面する著作権法に絡む問題や今後の法改正のポイントなどの情報提供を行った。

参加教員からは、「実際の手順を追って ICT 体験ができたのは良かった」、「授業は ICT の進化とともに改訂していかなくてはならないと感じた」、「著作権の認識が甘かったことがよく分かった」、「著作権は学内の講習会よりも分かりやすく参考になった」などの感想が寄せられた。

- ② ワークショップは、「Google Classroom の活用」に 2 コマ、「LMS の活用」に 2 コマ、「動画教材の作成」に 2 コマ、「アクティブ・ラーニングのマネジメント」に 1 コマ、「ループリックの作成」に 1 コマ、「ICT ツール入門」に 1 コマを設定し、アラカルト方式で実施し、その達成度を以下に掲載する。

ワークショップ	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① Google Classroom の活用	3 割	7 割	
② LMS の活用	4 割	6 割	
③ 動画教材の作成	3 割強	6 割	1 人
④ アクティブ・ラーニングのマネジメント	3 割	7 割	
⑤ ループリックの作成	4 割	6 割	
⑥ ICT ツール入門	3 割	7 割弱	1 人

- ③ 「Google Classroom」は、活用を考えている参加者が多く、様々な機能を使うヒントが得られたことから、「常日頃から LMS に興味を持ち体験する気持ちを持つと思った」、「質問の作り方や授業での使い方が参考になった」、「新年度に向けて目途が立った」などの感想があった。
- ④ 「LMS」は、活用意識が高い参加者が多かったことから、「授業の中で様々な手法を取り入れたい」、「Moodle の使用範囲が習得できた」、「自大学の LMS は機能が少ないので応用が難しいことが残念」などの感想があった。
- ⑤ 「動画教材の作成」は、積極的に取り組む参加者が多かったことから、「思っていたより手軽に作れるので早速試してみたい」、「動画アップロードまでの疑問点が解決で

きた」、「動画の編集方法をもう少し知りたかった」などの感想があった。

- ⑥ 「アクティブ・ラーニングのマネジメント」は、医療系と基礎教育系に分かれて、それぞれの課題を解決する方策について意見を出し合うことで、「授業に直ぐ使えるような ICT を用いた改善策のヒントを得ることができた」、「今後学んでいく材料となった」などの感想があった。
- ⑦ 「ループリック」は、LMS を使った作成演習と意見交換を行ったことで、「ディスカッションで良い知見を得た」、「学外での活用を模索していたので活路が見出せた」などの感想があった。
- ⑧ 「ICT ツール入門」は、今年度の新設したコースで、共有ホワイトボード、マインドマップなどいくつかのソフトと活用方法を紹介したことで、「すぐ使えて役立つツールの紹介でありがたかった」、「ICT を使って授業を進めるアイデアは思い浮かばなかったが小テストができる気がしてきた」、「学生の理解促進のためツールを駆使して工夫していることがわかった」、「使いにくそうだが使いたいツールがあり、もっと練習したい」などの感想があった。



全体会



ワークショップ



5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学職員の ICT 活用能力の開発・強化を支援するため、全国の大学・短期大学を対象に「大学職員情報化研究講習会」を 7 月頃に基礎講習コース、12 月頃に ICT 活用コースを実施する。教育の質的転換を目指した ICT 活用の企画・提案、学修成果を可視化する ICT の活用、IR システムの整備・活用、ICT を活用して教学マネジメント、業務改革などに主体的に関与できるよう、ICT 活用の知識・理解の獲得と実践力の促進を支援する。

<事業の実施結果>

「大学職員情報化研究講習会運営委員会」を継続設置し、「大学職員情報化研究講習会」を 7 月に基礎講習コース、12 月に ICT 活用コースを開催した。以下に委員会及び研究講習会の活動を報告する。

大学職員情報化研修講習会運営委員会

平成 30 年 4 月 23 日、10 月 25 日、平成 31 年 3 月 15 日に平均 11 名が出席し、3 回開催して開催要項の策定、実施準備、開催結果の振り返りを行った。

(1) 基礎講習コースの開催要項の策定

基礎講習コースは、大学の職員が ICT 活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指した。

本コースのプログラムは、基礎的に学習すべき情報を私情協 Web サイトのコンテンツと、昨年度実施した本講習会の成果を踏まえて事前学習してくることを前提に、基本的な知識・理解を共有する全体会と ICT を活用した望ましい改善策の構想を検討するグループ討議の 2 部で構成した。

全体会では、「業務革新ツールとしての ICT 活用と課題」、「情報システムの実際と課題」、「データの活用と業務の改善」、「企画立案支援のための IR 活動に必要な基礎知識」の情報提供を行い、ICT を活用して教育改革及び業務改革に主体的に関与することの重要性について気づきを促すことにした。その上でグループ討議では、参加者がどのように教育改革や大学改革に関与すべきか、対話、議論、発表・相互評価を通じて、課題認識の深化を目指して、以下のように開催要項を策定した。

平成 30 年度大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース開催要項

1. 開催日程：平成 30 年 7 月 4 日(水)～6 日(金)
2. 会 場：ダイワロイヤルホテル THE HAMANAKO (静岡県浜松市)
3. 対 象 者：私立大学・短期大学に所属する職員
4. 開催趣旨

本協会では私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、全学的な教育の質的転換及び教学マネジメント体制の整備に向け、職員として情報通信技術 (ICT) を駆使した教育改革に主体的に関与できるよう知識理解を深めるとともに、実践力の向上を目的として研究講習を実施しています。

本コースは、参加者が、ICT 活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。

5. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。

- ① ICT の活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識する。
- ② 問題発見・解決プロセスの体験を通じて、自己の業務の改善や職場における課題解決に ICT の活用を考え、提案できるようにする。

6. プログラム概要

【事前研修】

大学を取り巻く環境、社会が大学に求めること、ICTを活用した学修環境など、研修参加にあたり把握しておいていただきたい基礎的な情報について、本協会のWebサイト上のコンテンツで事前に学習していただきます。

【本研修】

第1部では、全体会において研修の心構え、大学を取り巻く環境、大学教育の質的転換の必要性和教学マネジメント体制の重要性、それらを実現するための基盤環境として情報通信技術（ICT）活用の意義などについて情報を共有し、課題認識を深めます。

第2部では、グループ討議により本研修の課題として設定したテーマについて、自らがどのように教育改革や大学改革に関与すべきか、ICTを活用した望ましい改善案の提言作りを通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

7. 第1部：【全体会】

(1) インTRODクシヨン「主体的に取り組むための心構え」

木村 増夫 氏（上智学院理事長補佐、運営委員会委員長）

大学の経営戦略や教育活動の充実に向けて、職員が主体的に取り組むための心構えについて理解の共有を図ります。

(2) 情報提供

①「業務革新ツールとしてのICT活用と課題」

遠藤 桂一 氏（芝浦工業大学情報システム部長）

大学の業務改革、教育改革におけるICT活用の現状を紹介し、業務を効果的・発展的に進める上で必須のICTについて、理解の共有を図り、利用にあたっての考え方を整理します。

②「情報システムの実状と課題」

牛島 裕 氏（近畿大学総合情報システム部事務部長）

クラウドやパッケージ利用など情報環境の標準化による業務の効率化、教育・研究活動の向上、情報システムのコスト低減について、背景・経緯などを紹介し、学校法人及び大学業務における情報システムの課題を確認します。

③「データの活用と業務の改善」

齋藤 真左樹 氏（日本福祉大学常務理事、副学長）

情報システムによるデータの収集・蓄積・集計・可視化などで、心得ておくべき点を整理し、問題発見・解決に役立てるデータ活用の実状と業務改善や教育・経営支援に向けた取組みの重要性を確認します。

④「企画立案支援のためのIR活動に必要な基礎知識」

鎌田 浩史 氏（学校法人上智学院IR推進室）

大学経営・教育研究におけるデータの利活用について、データを取り扱う上で注意すべき点、データの特徴や性質に合わせた可視化の手法、課題抽出のためのフレームワーク思考、報告用資料作成のポイントなどについて理解の共有を図ります。

(3) 全体討議

事前研修を含め、情報提供について理解度の確認を行った上で、ICTを活用して教育改革及び業務改革に主体的に関与することの重要性について、グループ及び全員で共有します。

8. 第2部：【グループ討議】

(1) 討議と成果のまとめ

職員各自が果たすべき役割やそれを実現するための手段として、ICTを活用する意義・重要性について理解します。理想的な教育環境や大学運営などを実現する上での課題を見だし、その解決方策にICTを効果的に活用する方法を検討・提案するプロセスの体験を通じて、職員に求められる能力開発の向上を目指します。

(2) 発表・相互評価

グループ討議の成果を発表し、グループ間での相互評価・意見交換を行い、様々な課題や解決のあり方があることを知るとともに、提案に対して多様な観点から捉えることができることを体験します。

(2) 基礎講習コースの実施結果

55大学から101名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

- ① 全体会では、いずれの情報提供に対しても関心を持つとともに、「ICTがなぜ必要なのか」、「ICTはあくまでも道具」、「ICTで全てのことを解決できる訳ではない」といったICT活用について意識の変化が全体討議の中で確認された。
- ② グループ討議では、ICTを活用して業務改革・教育改革の構想案に取り組んだ。業務経験年数が極めて浅いこともあり、問題を提起し、課題を設定する段階では活発であったが、ICTを活用して問題解決に取り組む段階になると、学内上層部の理解を得るための戦略的な提案などに十分考察が及ばなかった。しかし、問題発見・解決プロセスの体験を通じてICTを活用して主体的に取り組む姿勢の獲得はできた。なお、開催結果の詳細は、巻末の平成30年度事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。

(3) ICT活用コース開催要項の策定

プログラムは、「教育改革に向けたIRへの取り組み」をテーマとして、5件の情報提供により学修成果の可視化、IRによるデータ活用、データ集計作業の支援、クラウドの導入・活用支援の取り組みや方向性を共有することを目指して構成し、以下のように開催要項を策定した。

平成30年度大学職員情報化研究講習会 ICT活用コース開催要項

1. 開催日程：平成30年12月13日(木)
2. 会場：近畿大学（東大阪キャンパス）
3. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員及び教員
4. 開催趣旨：「教育改革に向けたIRへの取り組み」
教育改革に向けて、学修成果の検証と質保証の体制整備が急がれています。学修の質保証を確かなものとするには、個々の学生に関する教務情報・学生生活情報・就職情報とポートフォリオによる学修成果の可視化（ラーニング・アウトカム評価を含む）と、大学の各種学修支援機関と学部との協働によるエンロールマネジメントの組織的な連携を図っていくことが喫緊の課題となっています。
教職員が組織的に学生個々の成長を支援できるようにするには、日々の業務の中で職員が教育の質向上を意識して、客観的なデータにもとづく分析・検証・評価を通じて、問題を発見し、教育改革に向けた提案の立案がSDの一環として期待されています。
そこで、本研究講習会では、学修成果の可視化、IRによるデータ活用、データ集計作業の支援、クラウドの導入・活用支援の取り組みや方向性を共有します。
5. プログラム概要
 - (1) 全体会
 - ① 会場校挨拶
井口 信和 氏（近畿大学総合情報基盤センター長）
 - ② イントロダクション「ICT活用コースのねらい」
木村 増夫 氏（上智学院理事長補佐、運営委員会委員長）
 - ③ 「統合学生カルテ」とポートフォリオによる学びの質保証の取り組み
中村 信次 氏（日本福祉大学全学教育センター長、AP事業推進委員長）
 - ④ 教育改革の推進に向けた学修成果の可視化にもとづくIR戦略の取り組み
永江 総宜 氏（東京都市大学教育開発機構副機構長）
 - ⑤ 統合データベースを用いてデータの集計・マッピング・可視化を行うIR実践の支援
高村 智代香 氏（富士通文教ビジネス推進統括部ソリューション推進部）
 - ⑥ クラウドを活用した全学ICTサービスの展開事例
江夏 志門 氏（早稲田大学情報企画部情報企画課インフラグループリーダー）
 - ⑦ クラウド導入の情報提供・相談 ～国立情報学研究所の学認クラウド導入支援

サービス
吉田 浩 氏（国立情報学研究所クラウド基盤研究開発センター特任教授）
(2) 施設見学
「近畿大学アカデミックシアター」 自由見学

(4) ICT 活用コースの実施結果

5 5 大学 1 短期大学 5 賛助会員から 9 1 名の参加があった。学修の質保証を確かなものとするため、学修成果の可視化、I R によるデータ活用、データ集計作業の支援、クラウドの導入・活用支援の取り組みや方向性について、5 件の情報提供を通じて、理解の共有を目指した。

参加者のアンケートからは、「大学の質評価基準が不明確であることを実感し、学修到達レポートの活用事例が参考になった」、「様々な学生データを取得してディプロマサプリメントに活用する事例が参考になった」、「教員が学生のポートフォリオにコメントすることの大切さが良くわかった」、「BOX の活用を聞いて自大学の情報資産管理の遅れを改めて感じた」、「クラウドサービスの導入を検討しており情報学研究所の支援サービスが参考になった」などの感想が寄せられた。

以下に 5 件の情報提供の概要を報告する。

- ① 1 件目は、日本福祉大学から「統合学生カルテとポートフォリオによる学びの質保証の取り組み」として、卒業時点のディプロマサプリメントの情報がまだ確定されていないことから、全てのデータを蓄積した上で、その中からデータを抽出して学修到達レポートを自動作成している取り組みが紹介された。
- ② 2 件目は、東京都市大学から「教育改革の推進に向けた学修成果の可視化にもとづく IR 戦略の取り組み」として、e ポートフォリオに正課や正課外などの活動で培った経験を登録・可視化することで、1 年・2 年・3 年次でプレ・ディプロマサプリメントを発行し、教職員の支援を受けながら振り返りと目標の再設定を行っていることが紹介された。
- ③ 3 件目は、富士通株式会社から「総合データベースを用いてデータの集計・マッピング・可視化を行う I R 実践の支援」として、学生の質保証、教育効果の測定などの課題解決に I R を用いて、客観的なデータを横串して分析することで、改善策を仮説からエビデンスに基づき実証し、その結果を可視化するシステムとして、総合データベースとデータ分析ソフトの紹介と実演が行われた。
- ④ 4 件目は、早稲田大学で導入しているオンラインストレージサービス BOX の活用について「クラウドを活用した全学 ICT サービスの展開事例」として、情報資産管理をコスト、サービス、セキュリティなどの面から負担を軽減するため、暗号化、ウイルス対策、改ざん対策などのセキュリティ機能を持ったオンラインストレージサービス (BOX) を導入することで、メールの誤送信などセキュリティ事故の防御に役立てていることが紹介された。
- ⑤ 5 件目は、国立情報学研究所で推進している「クラウド導入の情報提供・相談～学認クラウド導入支援サービス」として、クラウド移行時のチェックリスト、個別相談への対応、ワークショップの開催などの支援サービスとその利用状況やメリットが紹介された。

なお、開催結果の詳細は、巻末の平成 3 0 年度事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。